

5 - 7 富士川・駿河湾地方における地殻変動観測（その11）

Crustal Movement Observation in the Fuji River and Suruga Bay Area (Part 11)

東京大学地震研究所 富士川地殻変動観測所
Fujigawa Crustal Movement Observatory
Earthquake Research Institute, University of Tokyo

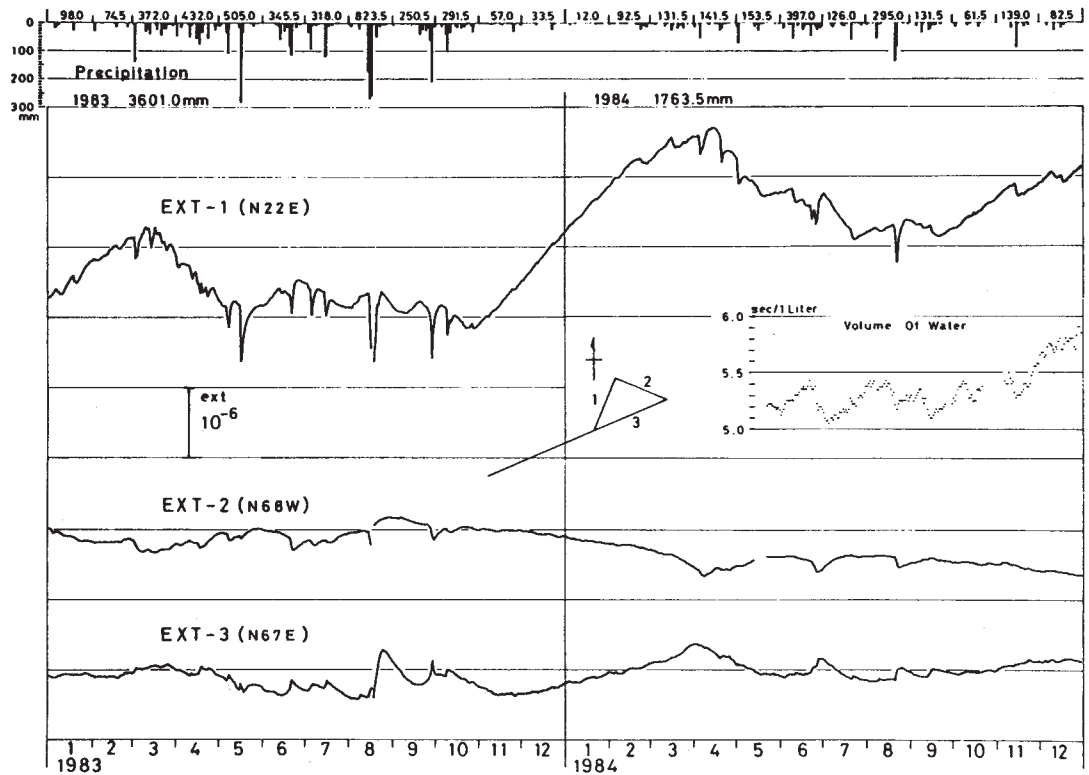
前報¹⁾に引き続き、富士川地殻変動観測所で得られた地殻変動連続観測記録（傾斜・伸縮・雨量・気圧・湧水量）および微小地震活動について報告する。期間は1984年1月～12月である。参考のため1983年の資料も示す（第1図）。9月14日の長野県西部地震前後には顕著な歪または傾斜の変化は見られない。

第2図は観測開始以来の読取型水管傾斜計記録の読み取り値の成分ごとの月平均値および12ヶ月の移動平均値を示し、第3図は、後者を合成した傾動ベクトル図である。同図を見ると、1983年なかば頃より坑掘削方向（初期ドリフトとは逆方向）の異常とも思える傾動が見られる。このドリフトの原因は今のところ不明であるが、1984年の年間降雨量（約1800mm；第1図）が平年の約半分と異常に少ないこともその要因の1つと考えられる。

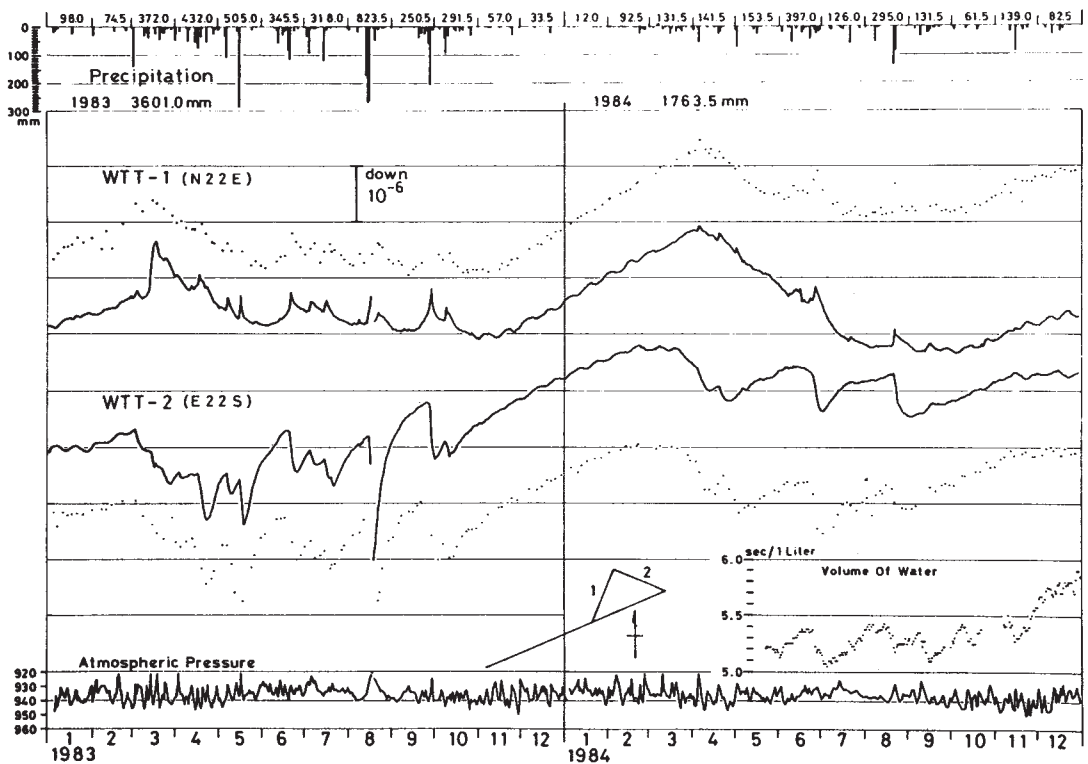
第4図は6ヶ月ごとの震源分布図、第5図は日別・月別地震回数である。5月の活動は奥山観測点直下、12月の活動は、その南方緯度約35°10′付近に発生したものである。地震活動と地殻変動の関連性については現在調査中である。

参 考 文 献

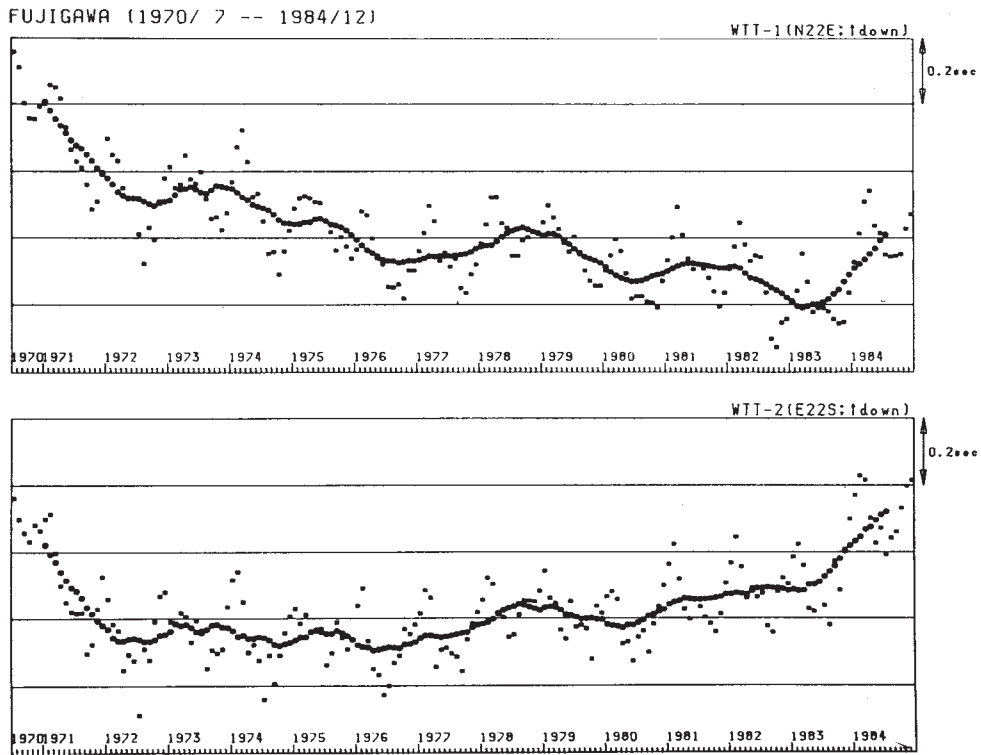
- 1) 東京大学地震研究所富士川地殻変動観測所：富士川・駿河湾地方における地殻変動観測（その10）、連絡会報，**32**（1984），230 - 235.



第1図 (a) 水晶管伸縮計 (毎日0時読取值), 日雨量, および湧水量の観測結果
 Fig. 1 (a) The earth's strain (momentary values at 00h), daily precipitation and water flow rate.

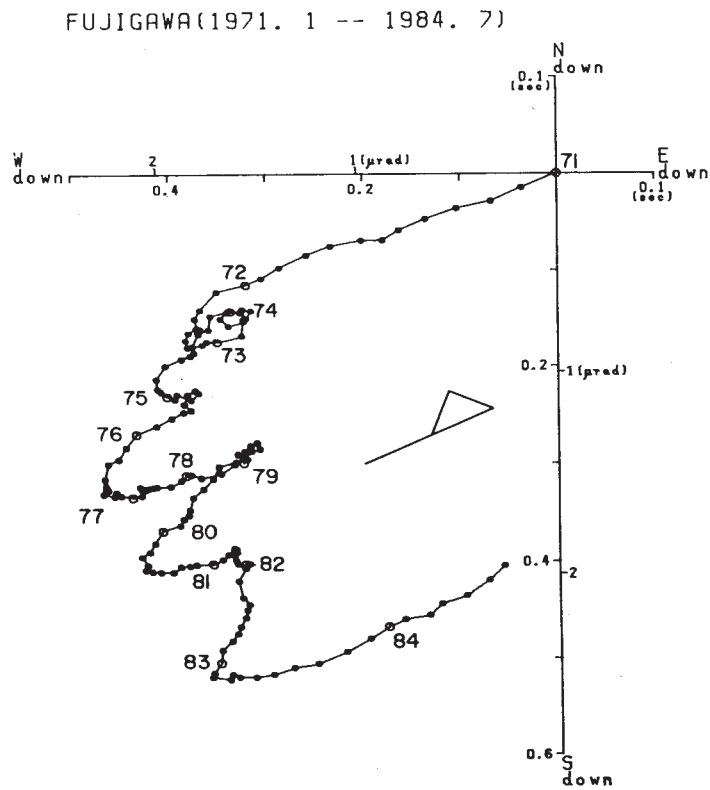


第1図 (b) 水管傾斜計 (実線 = フロート式の毎日0時読取值; 点線 = 読取型),
 日雨量, 気圧, および湧水量の観測結果
 Fig. 1 (b) The earth's tilt (solid lines-momentary values at 00h of float type WTT, dots-reading type WTT),
 daily precipitation, atmospheric pressure, and water flow rate.



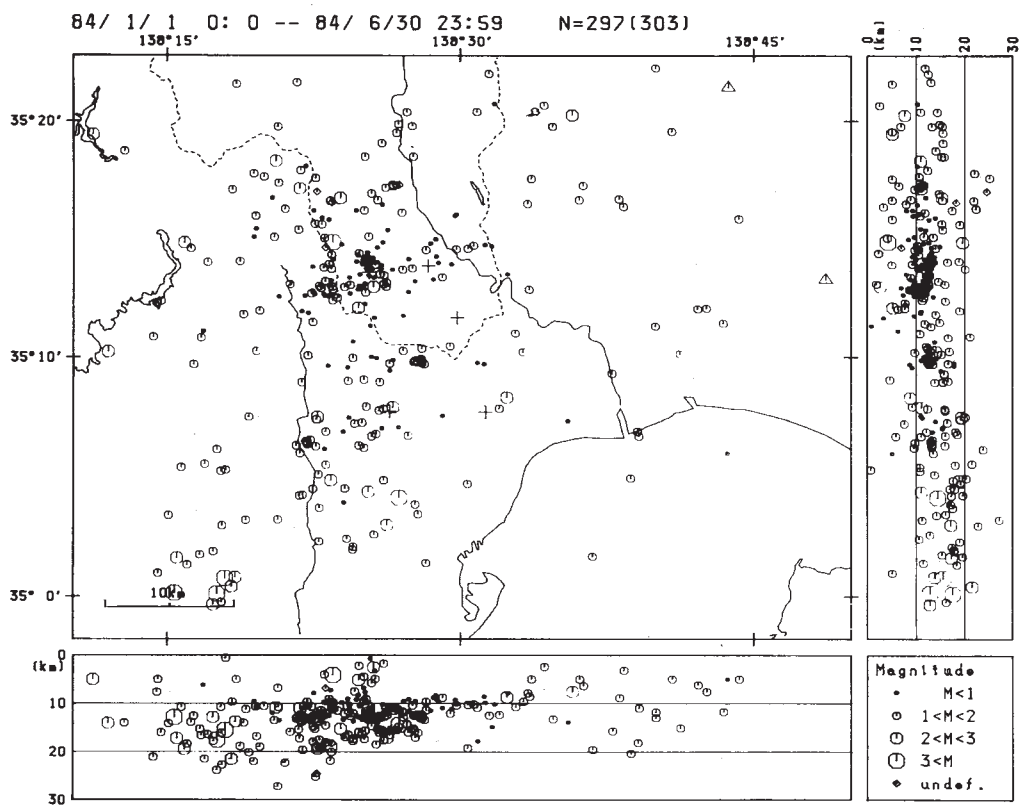
第2図 読取型水管傾斜計による累積傾斜変化 (□ = 月平均値; ● = 12ヶ月移動平均値)

Fig. 2 Cumulative tilt change by reading type WTT (□ = monthly mean; ● = after 12 month's running mean).



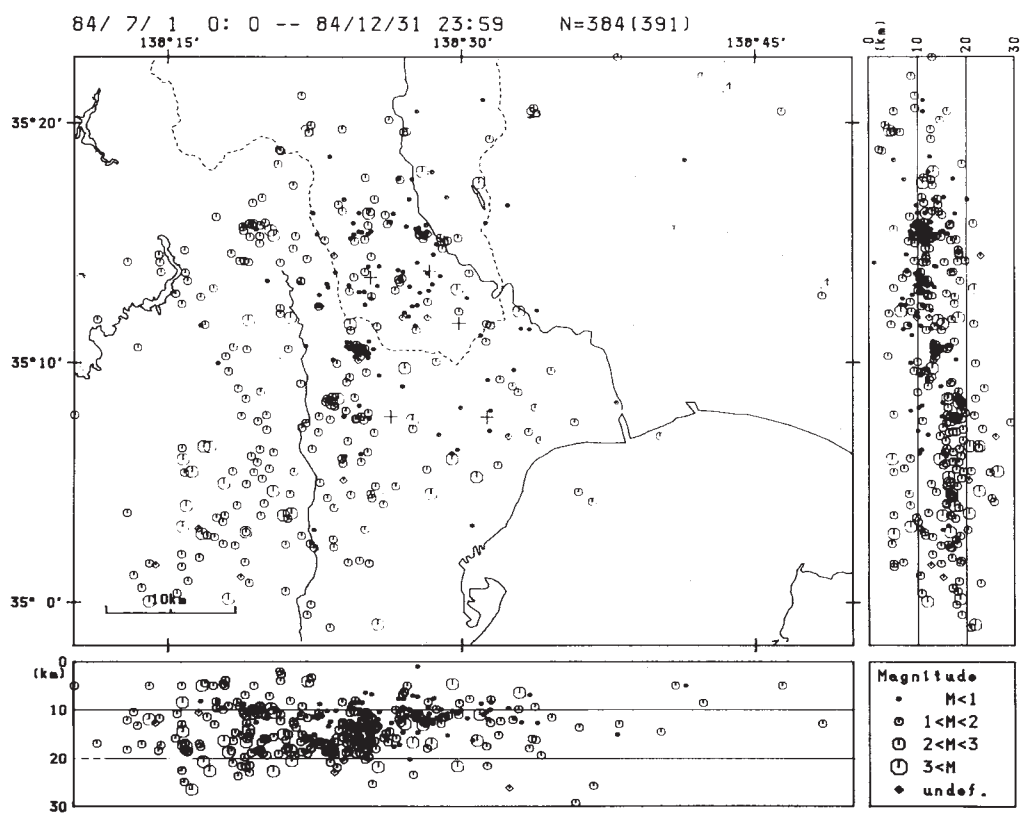
第3図 傾動ベクトル図 (12ヶ月移動平均値)

Fig. 3 Vector presentation of the cumulative tilt (after monthly running mean) at the Fujigawa Observatory.



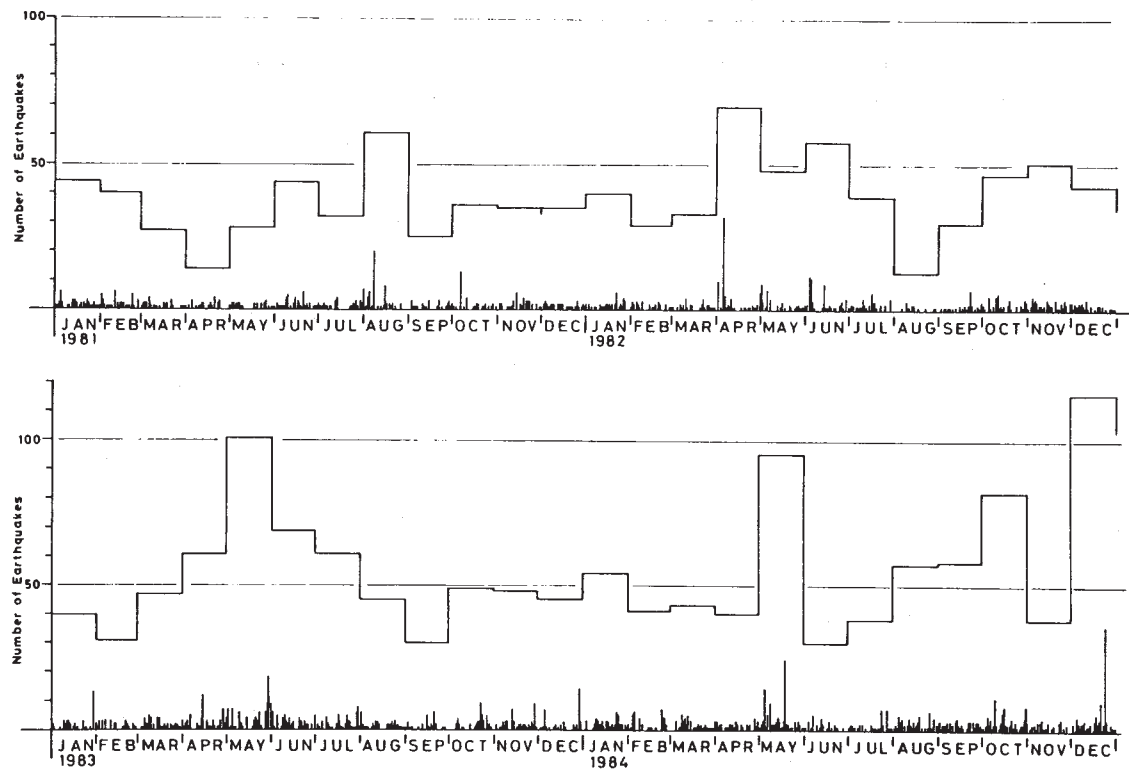
第4図 (a) 震源分布図 1984年1月~6月

Fig. 4 (a) Hypocenter distribution near the Fujigawa Observatory (January 1, - June 30, 1984).



第4図 (b) 震源分布図 1984年7月~12月

Fig. 4 (b) Hypocenter distribution near the Fujigawa Observatory (July 1, 1984 - December 31, 1984).



第5図 日別および月別地震回数（震源の決められたもの）

Fig. 5 Daily and monthly numbers of earthquakes whose hypocenters are determined.